

甲府市自殺対策推進協議会令和元年度第1回会議 議事録

1 会議日程

日時 令和2年1月23日(木) 午後3時～

場所 甲府市健康支援センター 2号館2階大会議室

2 出席者

・委員(名簿順)

山角 駿 神崎 由紀 小石川 好美 新田 正彦 戸田 知

青柳 英子 小林 桂子 天谷 恵 坂田 純恵 井上 好美

寺田 幸子 小林 美貴

(欠席: 山中 達也 津金 永二 矢崎 秀治 関根 由起子)

・事務局

健康支援センター室長 古屋 好美

福祉保健総室長 山村 博

精神保健担当課長 村山 かほる

健康増進課 課長 渡辺 亜矢子

健康増進課 課長補佐 小田切 いのり

健康増進課 係長 長田 麻衣子

健康増進課 係長 齊藤 亜矢子

健康増進課 係長 藤巻 敬子

健康増進課 菅原 健太

3 会議次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 甲府市自殺対策推進計画の進捗状況について

(2) 各機関・団体等における令和元年度の取組について

(3) その他

4 閉会

4 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者の定員 5名

傍聴者数 0名

5 議事の要旨

議題（1） 甲府市自殺対策推進計画の進捗状況について

事務局

（甲府市自殺対策推進計画の進捗状況について説明）

議長

事務局から説明がありましたが、これについて何かご質問あるいはご意見等はございますでしょうか。

（質問・意見等は特になし）

議題（2） 各機関・団体等における令和元年度の取組について

議長

議題2「各機関・団体等における令和元年度の取組について」に移りたいと思います。

A委員

地域が良くなれば自殺者が減ると思います。私たちの団体は、各家庭を訪問して生活相談に乗り、関係する諸団体及び関係機関への連絡を取りながら生活支援をしていく活動に取り組んでいます。地域でもそれぞれ研修会を開催する中で自殺予防対策に対する認識を深めて活動し、予防対策に繋がると良いと考えています。今年度、民生委員が改正になり、全体研修会等を予定しています。市の福祉保健部の事務局と相談しながら、自殺予防に関わる研修会、ゲートキーパー等の学習会を行っていったら良いと思っております。また、児童生徒の自殺予防については、主任児童委員の皆様が、学校関係者との連携を深めながら、児童の健全育成を図り、自殺予防に繋がる活動をしていきたいと思っております。

B委員

いじめに関するアンケートを取る中で、辛い思いをしている子どもの声があれば対応していく部分に関係しています。校長会でこの件に関して委員会から依頼を受けてほしいという意見はありません。役員の方と、目標の中に“SOSの出し方に関する教育の実施校の割合が市内公立校の60%”とあるが、現状なかなか難しいという意見が出ました。文科省の資料を使い行う教職員に、どのような目標を持ち、どのような位置から行うのかは研修させた方が良いでしょう。保護者や子供たちが自殺という資料を出すことにより不安になるので、実施するのであれば研究委員会等をつくり、どのような視点で

取り組んでいくのか考えて進めていくようにしたい。

議長

学校の現場では自殺という言葉が馴染まないと感じます。どのようなかたちで学校教育の中に取り入れるのか、また、若年者は少数ですが、現実、死亡原因としてトップに出ますが、何かご検討、方法がありますか。

B委員

甲府市の自殺率が高いというデータが出ていますが、年代別にどのような要因が考えられるのか理解していく必要があると思いますので、そういったデータもあると分かりやすいです。

C委員

週に一回、精神科の先生に来ていただいて対応しています。緩和ケア、認知症の方には認定看護師が中心に患者さんに対応しています。職員には年に3回、看護師長が面接を行い、瞬時に対応し、受診の勧奨をしています。院内にはパワハラ委員会がありますが、第三者が入らないフローになっているため、相談者が納得する対応が出来ているかは疑問があります。臨床心理士の相談体制も整えています。山梨県看護協会でも毎年、看護職の心の健康相談事業が実施されています。管理者がスタッフに知らせるように周知しています。

D委員

労働委員会に入っています。昨年一年間、メンタルヘルス対策セミナー、働き方セミナー、パワーハラスメント対策等について、甲府市の中小企業の経営者向けのセミナーの開催が多くなってきています。企業の規模に関わらず、ストレスチェック等の導入をできるよう取り組んでいます。様々な委員会でも、働き方の改革、有給休暇など、働きやすくなる仕組みづくりという議題が多いです。会社の立場としては、社員の意識調査、心の健康相談、ストレスチェックなどの数値の傾向を見て、どのような面談をしたらよいのかというような、対策に関する管理職側の研修を増やしていく動きがあります。

議長

甲府市は中小企業が中心です。大企業ではシステムを取り入れているところが多いと思いますが、中小企業の浸透率、実施率どうですか。

D委員

具体的な数値は把握できていないですが、セミナーを通じて、業種によって簡単に取

り組みやすいものがあれば良いというお声はあり、考えていかなければならないと思っています。

議長

ハイリスク者を把握して、次のステップでどうしたら良いのかというところが中小企業では悩みではないかと思います。そのようなところにも視点を当てていただけるとありがたいです。

E 委員

2019年度の総会資料より、山梨いのちの電話では平成30年、一年間で3,197件相談電話を受けました。これと並行して、日本いのちの電話連盟で月に1回行う、24時間フリーダイヤル自殺予防いのちの電話では、211件取り、計3408件となります。年齢別では、50代の相談者が一番多く、次に40代、30代の傾向があります。内容は、“もっていき場のない精神の病の苦しき”が多くみられます。これらの中で、自殺の危機を感じる電話と判断されるのは305件が該当します。男性は、思想、人権の内容が多く、女性では一番多いのは経済で、次いで思想です。

私たちは傾聴を基本としていますが、どこかに繋げてもらいたいと感じた時は、弁護士等に相談することを考えたか、DVは自分だけが耐えていけば良いと思うかもしれないが、子どもたちに影響があるから、できれば外にSOSを出してほしいといったような、外に繋げることも考えながら傾聴しています。一番の課題は、相談員が減少しているという問題です。公開講座を設けて、相談員の育成を、1年間を通して行っていますが、現在活動している相談員の高齢化が進み、相談電話を受ける担い手が減っています。

F 委員

児童相談所では、自殺対策、自殺予防対策に特化した取組みはありません。相談の中で精神的な病の領域にいる子どもや家族の方と接触する機会が多くあり、病院の紹介、どのように対応したらよいか助言をしています。児童相談所は、ほとんど虐待問題で動いています。被虐待児、虐待を受けていた親御さんは自己肯定感が低く、自殺を希望したり、無理心中を図ったりするケースがあります。虐待を予防していくことが、心の健康を保てる取組での最初に大切になることではないかと思います。虐待予防に時間を取られるため、自殺予防を特化していくのが難しいです。職員の方は、カウンセリングや受診を受ける機会があります。何年か前からストレスチェックもあり、サポートを受けられる体制になっています。

G 委員

包括支援センターでは、元気アップ高齢者の把握を行っています。基本チェックリス

トの中で、うつに関する質問項目に該当する方へ電話をしたり、訪問したりしてお悩みを聞いています。認知症の方を介護している家族に関しても、悩みが多く、ストレスを抱えこむ方が多いので、家族介護教室に参加していただいて、同じ悩みを持つ方とお話しすることでストレス発散を呼び掛け、サロンなどの地域の集まりにも参加していただけるようお声掛けをしています。総合相談では、65歳未満の方の悩みは引きこもりの問題が多く、両親の介護についてお悩みの方もいます。健康増進課の担当保健師にも相談しながら関わっています。今まで自殺に関するケースはないですが、悩みを抱えている方は多いです。引きつづき訪問等を通じて対応していければと思います。

H委員

私共は就労支援という形になりますが、自殺に特化して何かしていることはありません。生活困窮者の支援を、市役所の中にワークプラザ甲府という職業相談の施設を設置して、市の方と連携を取って行っています。ハローワーク住吉の方でも就労支援を行っています。それ以外にも、障害者の方の就労支援ということで、就職ができない方については、まずは体調を整えることが大事ですので、福祉に相談するようにご案内しています。就職ができる方には、ご本人の希望を聞いて就職相談をして紹介しています。

議長

例えば、窓口を担当する職員で、ゲートキーパー養成講座を受けている方はいますか。

H委員

そこまでは、把握していません。

企業の方には、特に精神障害者の就職について理解していただくのに、仕事サポート養成講座も定期的に開催して、労働局で受付しています。精神障がい者トータルサポーターが常駐していて、勤務は15日くらいです。養成講座の依頼があれば施設に伺い、1時間程度の講座を開催しています。

I委員

委員のご意見・発表を伺い、それぞれの立場でご苦労頂いていることに有難く思います。現在は地区社協に関わっていますが、以前は高校の教員、病弱教育の教員を経験しています。その中で大事だと思うのは人間関係です。まずは地域が良くなければということです。それぞれの職場、学校、地域、どこにおいても人と人との関わりが大切です。軽く声をかけることが毎日の生活で子どもの悩みにも気付くことができます。難しい問題だと思いますが、大事な命を精一杯、楽しく生きていけるように、これからもよろしく願いいたします。

J委員

今日の自殺対策では、優しさにあふれた、きめ細やかなサポートが必要だと思います。

自宅で娘や息子と自殺防止の話をして、ハグをしたらどうかという意見が出ました。家では疲れた時、不安な時にハグをしています。アメリカで生徒が自殺しようとした際、教師がハグをして止めたという話があります。例えば、ハグを促進するキャンペーン、いつでも行けばハグしてもらえる場所がある等の話題性をつくると良いと思います。山梨はそういう部分が弱いので、もったいないと思います。

議長

各委員の方々、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

K委員

自殺は難しい問題です。防止という観点では、地域づくり、職場の環境づくりが大事になると思います。それぞれの立場で、虐待、小学校でのいじめ、生活困窮といったリスクの高い方々が、少しでも自殺にならないような関わりをもっていただいていることが分かりました。今後も引き続き支援を行い、少しでも減っていくと良いと思います。

議長

どなたか意見を追加したい方はいますか。

(質問・意見等は特になし)

自殺は、人間関係の隙間やいろいろなシステムの隙間など少しの隙間から生まれるものだと思います。ちょっとした一人ひとりの気遣いがそういう隙間を少なくして、結果的に自殺の防止に繋がるという印象を持ちました。やはり継続することが最も重要なことで、計画ができましたが、5年計画で5年経てば終わりではなく、その後も良いことは継続していくことです。アイデアもいただきましたので、取り入れていけると良いと思います。

議題 (3) その他

議長

委員の皆様から何かありますか。

(質問・意見等は特になし)

事務局で何かありますか。

事務局

特にございません。

議長

来年度はどうなりますか。

事務局

来年度は、確定ではないですが、年度の初めに取組内容を確認し、年度の終わりに進捗状況や次年度に向けてどのようにしていくかの振り返りをするかたちが望ましいので、そのようにできるように検討していきたいと思います。

以 上